

2008年1月24日

報道関係各位

ノバルティス ファーマ株式会社  
ノバルティス地域医療賞委員会

## 第15回ノバルティス地域医療賞受賞者決定

2007年12月に行われましたノバルティス地域医療賞委員会におきまして「第15回ノバルティス地域医療賞」の受賞者5名が下記のとおり決定いたしました。この賞は、地域に密着した医療活動を通じ、地域住民の保健衛生の向上に著しく貢献した日本医師会会員を顕彰するものです。1993年に設立され、毎年5名が選ばれています。

受賞者には、1月24日に東京のホテルオークラにおいて行われた贈呈式で、表彰状と記念楯、副賞として100万円が贈呈されました。

### 記

#### ＜第15回ノバルティス地域医療賞 受賞者＞五十音順・敬称略

地域	受賞者	年齢	性別	功績タイトル
三重県松阪市	おおすぎ やすかず 大杉 安和	79歳	男性	小児科医としての学校保健と地域医療への長年の貢献
広島県竹原市	おおたわ やすのり 大多和 泰憲	75歳	男性	強い信念における医療を通じての地域への貢献
和歌山県 <sup>いわで</sup> 岩出市	おがわ ただひろ 小川 忠宏	92歳	男性	長年の多方面における地域医療への尽力
兵庫県加古川市	かわにし まさひろ 川西 正廣	73歳	男性	医師会活動を通じた地域医療の充実と学校保健の発展への寄与
熊本県 <sup>くま</sup> 球磨郡	よこやま よしはる 横山 義春	81歳	男性	半世紀以上にわたる地道で献身的な医療活動

以上

- 添付資料：「第15回ノバルティス地域医療賞」受賞者の略歴と功績  
ノバルティス地域医療賞の経緯  
ノバルティス地域医療賞の規定  
ノバルティス地域医療賞委員会委員  
第1回～14回受賞者一覧

おおすぎ やすかず  
**大杉 安和 (79歳)**

(昭和29年 三重県立医科大学卒業 三重県医師会)

[功績]

昭和33年、無医地区の松阪市町平尾町（獵師町）に開業した。獵師町特有の細い路地を昼夜を問わず往診に向かい、誰からも愛される地域に密着した医療を率先して行ってきた。また、昭和34年から平成19年まで、近隣の小学校校医などを務め、学校保健に貢献した。子供たちの心のケアの大切さを説き、「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」の例え通り子供たちが心身共健やかに成長できるよう気さくに声をかけ、心の変化にも注意を払った。更に市の休日応急診療所へは開設当初の昭和49年以来、昭和56年に同診療所が休日夜間応急診療所になった後も平成17年度末まで、近年、絶対数が少ない小児科医として、高齢にもかかわらず休日と夜間に当番制で勤めた。今もお、地域における指導的役割を果たしている。

[現職]

大杉診療所院長、松阪地区医師会議長

おおたわ やすのり  
**大多和 泰憲 (75歳)**

(昭和33年 九州大学医学部卒業 広島県医師会)

[功績]

昭和48年に開業した竹原市忠海地域は、長期にわたり外科医が不在で住民の不安が募り、住民代表が氏に地元での開業を請願し開業に至った。氏は開業医として3つの方針（①広告はしない。②不必要な検査、投薬はしない。③難しい症例と思ったら直ちに専門医に紹介する。）を立て、強い信念のもとそれを現在も実行している。人格高潔、私利私欲の無い氏はたちまち地域住民や他医の信頼するところとなり、内科全般はもとより、多くの外科手術を手がけ、医療を通じて大きく地域に貢献してきた。また長年、中学校・高校の校医や産業医も務めてきた。日進月歩の新しい医学知識の習得に務め、学会、医師会の勉強会に積極的に参加・発言し日常診療に還元する姿勢は、後輩医師の手本とすべき存在である。

[現職]

大多和医院院長

おがわ ただひろ  
**小川 忠宏 (92歳)**

(昭和16年 大阪帝国大学医学部卒業 和歌山県医師会)

[功績]

昭和22年に開院、今日に至るまで地域住民の診療に当たり、住民の疾病治療はもとより健康管理、保健指導等に幾多の功績を残し、92歳にしてなお現役の開業医として活躍している。現在までの主な功績は、①昭和25年から平成12年まで、行政の委託を受け乳幼児の健診、予防接種業務に尽力し、現在も紀ノ川市、岩出市の乳幼児の予防接種業務を継続している。②昭和28年から平成12年まで、近隣の保育所、小学校で児童生徒の健康管理に貢献した。③昭和36年から平成18年の永きにわたり警察医を委嘱され、死体検案業務や留置人の健診等にも尽力した。④昭和45年より岩出町農協の審査医および産業医を委嘱され、生命保険の審査業務や農協職員の健康管理に貢献している。

[現職]

小川医院院長

かわにし まさひろ  
**川西 正廣 (73歳)**

(昭和35年 東京医科大学卒業 兵庫県医師会)

[功績]

昭和46年に加古川市に開院以来、医師会活動に積極的に参加し、その間に市民健康調査事業(疫学調査)を提案し、昭和49年度より10年間、加古川市・稲美町・播磨町で煤煙等の人体への影響等を含めた健康調査を実施し、学校保健データや住民健診データを併せ分析や評価を行った。その結果を基に市民健康調査部会長として資料をまとめ、地域住民の健康管理と改善に尽力するなど、現在に至るまで40年の永きに亘り地域医療の充実と学校保健の発展に大いに寄与している。地域保健活動としては、昭和55年の加古川総合保健センターの設立に尽力し、市民を対象とした健康教育に注力した。また、介護保険関連では市の認定レベルの標準化に中心的役割を担い、医学知識の講義など介護従事者育成にも積極的に取り組んでいる。

[現職]

川西内科医院院長、加古川市介護保険認定審査会委員、(財)加古川総合保健センター人間ドック部会長

よこやま よしはる  
横山 義春 (81歳)

(昭和29年 熊本医科大学卒業 熊本県医師会)

[功績]

昭和31年に町立の診療所に勤務後、昭和36年に開院し現在も僻地を有する黒肥地の地に根を下ろし、半世紀以上地域に密着した医師として地域医療に貢献している。特に昭和30年、40年代は交通手段も道路事情も劣悪な環境の中、広範囲で山間部に点在する患者への往診が多く、時間と体力を要した。当時は同町の公立病院も医師、設備共に充実したものではなく、遠方への患者の搬送もままならない状況で、専門外の疾患も多く広い知識が要求された。また、地区唯一の医師として小・中学校などの校医や未成年の知的障害者施設の園医、校医を務め、学校保健衛生や社会福祉事業へ貢献している。このような長期にわたる地道で献身的な活動で町民の信頼も厚く、人当たりのいい優しい性格は町民に安心感を与え続けている。

[現職]

山江老人保健施設常勤医師

## ノバルティス地域医療賞の経緯

1993年、当時の日本チバガイギー株式会社は、日本医師会の協力を得て、Ciba 地域医療賞委員会（現：ノバルティス地域医療賞委員会）を設立し、地域医療に貢献されている日本医師会会員を顕彰する制度が発足いたしました。

この制度は、住民に密着して医療活動に従事し、優れた功績をあげ、地域住民の保健衛生の向上のために著しく貢献された医師会会員の方を顕彰するもので、名称は「Ciba 地域医療賞」とされました。

1994年に第1回の贈呈式を開催し、その後、毎年1回、5名ずつの先生方が受賞されています。

なお、1997年4月に日本チバガイギー株式会社とサンド薬品株式会社が統合し、ノバルティス ファーマ株式会社となりましたので、日本医師会のご理解のもと「ノバルティス地域医療賞」と名称を改めました。

本賞の運営および受賞者の選考については、別紙のとおり、日本医師会の代表、学識経験者、ノバルティス ファーマ株式会社の代表者で構成されるノバルティス地域医療賞委員会が行います。

本賞の概要につきましては、別紙の「ノバルティス地域医療賞」の規定をご参照ください。

## 「ノバルティス地域医療賞」の規定

- <目的> 全国各地で住民に密着して医療活動に従事し、優れた功績をあげ、地域住民の保健衛生の向上に著しく貢献された、日本医師会の方を表彰する。
- <主催> ノバルティス地域医療賞委員会
- <後援> 社団法人 日本医師会
- <表彰> 日本医師会長、または各都道府県医師会長から、推薦された応募者を「ノバルティス地域医療賞委員会」（日本医師会の代表、学識経験者、ノバルティス ファーマ株式会社の代表で構成）にて、受賞者を選考し、毎年一回表彰する。  
受賞者には賞状と記念盾及び副賞 100 万円を贈呈する。

- <応募要領>
- (1) 対象者  
日本国内を主たる活動地とする日本医師会員とする。  
(グループ活動は除く)
  - (2) 推薦  
原則として、1 推薦者から 1 名とする。
  - (3) 応募方法  
推薦者は所定の用紙にて推薦し、10 月 31 日迄にノバルティス地域医療賞委員会事務局に提出する。
  - (4) 事務局  
「ノバルティス地域医療賞委員会事務局」

〒106-8618

東京都港区西麻布4丁目17番30号

ノバルティス ファーマ株式会社 内

電話：03-3797-8519

FAX：03-3797-4497

## ノバルティス地域医療賞委員会委員

社団法人 日本医師会（5名）

委員長

唐澤 祥人 会長

宝住 与一 副会長

羽生田 俊 常任理事

飯沼 雅朗 常任理事

中川 俊男 常任理事

学識経験者（1名）

森岡 恭彦 日本赤十字社医療センター 名誉院長  
東京大学 名誉教授

ノバルティスホールディングジャパン株式会社（1名）

大橋 勇郎 代表取締役社長

## ノバルティス地域医療賞 これまでの受賞者

(五十音順・敬称略)

<b>第 1 回</b> 神奈川県 小川 武満 静岡県 北村 廉作 宮崎県 清永 恕 大分県 杉田 肇 大阪府 橋本 博	<b>第 8 回</b> 高知県 島田 作 徳島県 中山 壽孝 沖縄県 長田 紀春 神奈川県 福島 弘毅 長崎県 牟田 博夫
<b>第 2 回</b> 東京都 塚部 祥生 島根県 花田 カズ 京都府 原 治 宮城県 堀田 廣行 茨城県 室生 勝	<b>第 9 回</b> 鹿児島県 有村 周雄 和歌山県 浦 淳市 岐阜県 諏訪 求仁雄 埼玉県 高橋 康 秋田県 福永 光子
<b>第 3 回</b> 群馬県 織田 敏郎 岐阜県 黒岩 翠 岡山県 福島 功 愛媛県 藤原 寿則 大阪府 保坂 智子	<b>第 10 回</b> 東京都 浅川 春巳 兵庫県 飯田 英夫 埼玉県 佐藤 幸子 北海道 柳内 統 沖縄県 吉田 春子 < 10 周年記念賞 > 鳥取県 松田 泰彦
<b>第 4 回</b> 京都府 伊藤 盛夫 宮城県 庄司 眞 埼玉県 鈴木 邦明 東京都 徳光 裕子 鹿児島県 牧角 仙丞	<b>第 11 回</b> 埼玉県 上原 正夫 鹿児島県 瀬戸上 健二郎 山口県 竹内 清海 三重県 町井 二作 長崎県 松村 哲男
<b>第 5 回</b> 宮城県 斎藤 一夫 群馬県 角田 勤 静岡県 三輪 淳 神奈川県 山口 肇久 岐阜県 渡辺 茂樹	<b>第 12 回</b> 兵庫県 姉崎 赳夫 神奈川県 佐伯 輝子 岡山県 佐藤 博 島根県 山根 林 秋田県 吉本 ミチ
<b>第 6 回</b> 香川県 浮田 春雄 宮城県 大井 康 福岡県 清沢 博 沖縄県 金城 和男 鳥取県 齋藤 五彦	<b>第 13 回</b> 広島県 唐川 正典 岩手県 佐々木 伸也 愛媛県 篠原 秀幸 沖縄県 宮里 不二雄 三重県 柳瀬 恒範
<b>第 7 回</b> 佐賀県 内藤 光二 愛媛県 奈良 邦夫 東京都 萩原 謙二 広島県 平田 敏夫 愛知県 森 澄	<b>第 14 回</b> 岐阜県 大島 紀玖夫 広島県 花咲 博 栃木県 松本 幸三 鹿児島県 水間 良信 兵庫県 皆木 吉泰